日本ラチーノ学院「ブラジル・フェスタ」参加報告

海外事情研究会 OB 会
引地正之

平成 24 年 10 月 7 日（日）午後 3 時から午後 9 時まで日本ラチーノ学院に於いて「Festa do Brasil」が開催されました。学移連 OB 会西日本支部・校友会・海外事情研究会 OB 会のメンバーは同学院のフェスタに協力・参加しました。

同学院校庭でブラジル・フェスタは、約 300 人の父兄・地域住民が参加して、活気あふれる雰囲気の中で行われました。





フェスタに協力して、河野道貞氏（海外事情研究会 OB）が焼きそばの出店を行い、ブラジル料理の出店の中で唯一日本料理の出店で参加者には大変好評でした。









近江八幡市、及び近郊には、かくも多くの日系ブラジル人が在住しているのか？ と、驚くほどの日系ブラジル人が同学院校庭に集まり、屋台での料理・飲料を楽しみながら思い思いに友人・知人と和やかに懇談をして打ち解けた雰囲気の中で、予定よりもかなり遅れて校庭に設定されたステージで上村学院長の挨拶でフェスタは始まり、同学院職員の司会進行でフェスタは進行して行きました。





同学院内での公用語はポルトガル語で、ブラジルフェスタの参加者は全てポルトガル語で会話をして、さながら近江八幡市の中のブラジルと云う雰囲気の中、ステージ上でのブラジルスタイルのスローなプログラムは進行して、保育児・幼稚園児のダンスに始まり、小学生・中学生・高校生のダンスが披露されました。ブラジルの雰囲気だけあって、校庭内はポルトガル語が飛び交い、ステージの音楽に合わせながら小さな子供が校庭でサンバのリズムに合わせ踊っている家族や、音楽に合わせて踊りながら舞台を観ていた参加者など終始陽気な雰囲気を醸し出していました。





学移連 OB 会西日本支部・校友会のメンバーは、サンバの音楽が流れ、ブラジルの雰囲気の中、焼きそばや飲料の販売を手伝う中、他の出店のブラジル料理を食し、音楽を聴きながら、日常生活とは異なったブラジルの雰囲気を楽しみました。特に、河野氏の焼きそばは好評で同学院の職員の中には焼きそばの作り方を教えて欲しい、と言って河野氏の指

導を仰いだ職員もおり、用意した 100 食分の焼きそばはフェスタ終了間際に完売し、河野氏は当日の売り上げを同学院に寄付しました。





当日のフェスタには、焼きそばの屋台を出店した海研 OB の河野道貞氏を始め、同学院高校 3 年生の日本語授業を受け持っている猪原悦子氏、校友会副会長藤井章子氏、塚田智恵氏、田中美果氏など日頃同学院でボランティ活動を行っている校友会メンバーが参加して、ブラジリアン デイ（Dia do Brasil）を楽しみました。

完